

3					
主題	会計業務効率化への取り組み				
副題	伝票入力データのインポート化による業務効率化への取り組み				
キーワード 1	インポートデータ	キーワード 2	会計業務の効率化	研究(実践)期間	12 ヶ月

法人名・事業所名	社会福祉法人三育ライフ 特別養護老人ホームシャローム東久留米
発表者(職種)	千先 稜 事務職
共同研究(実践)者	松田 光一

電 話	042-467-1561	F A X	042-467-3040
-----	--------------	-------	--------------

事業所紹介	「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える」という法人の理念を基本に生命の尊厳と人権の尊重、思いやりといたわり、生活の質の向上を目標として平成4年から東京都北部にある東久留米市を中心に福祉事業を行っている高齢者総合福祉施設
-------	--

### 《1. 研究(実践)前の状況と課題》

社会福祉法人三育ライフ東京事業所の会計業務の中で、会計ソフトへの仕訳入力(伝票入力)業務が大きなウェイトを占めており、毎月約800本の仕訳を入力するために、2名で担当しており入力時間の負担が増しておりました。始めは、会計ソフトのコピー機能を使っており、数時間の時間短縮にはなりましたが、その月で使用しない仕訳を一つ一つ削除する作業や、新たに入力する仕訳にも時間がかかり、業務の効率化が十分に行えず、早急な改善が求められた。

### 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

今現在使用している会計ソフト福祉総合システム「SWING 財務会計システム」とは別のソフト「伝票入力オプション」を導入することにより、『伝票入力作業を分散化させ、会計業務の効率化を支援し、各事業で発生する伝票を入力し、本体である財務会計システムへ転送し、伝票入力に掛かる処理時間を短縮させる』ことを実践の目的とし、処理時間を短縮させて、正しい経営判断が行えるような会計情報を提供できるようにする。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

2017年8月に「伝票入力オプション」を導入することにより、EXCELで作成した前月分の仕訳データ(CSVデータ)を伝票入力オプションに読み込ませることにより作成した仕訳が全て入ることになり、自動入力という方法で取り組んだ。

特に、仕訳数が多い各事業所の通帳の取引を、みずほ銀行のインターネットバンキングからPDFファイルにし、それをEXCELに変換させ、更に「伝票入力オプション」に取り込むためにEXCELデータを加工し、CSVで保存をし、その保存したデータを「伝票入力オプション」に読み込ませ、承認と転送処理を行うことにより完了することになる。

#### 《4. 取り組みの結果》

2017年7月分の会計業務から12ヵ月が経ち、会計データを作成する時間が短縮し、以前は伝票入力に3週間かかっていた業務を2週間までに短縮させることができ、前月までの経営状況を早く把握することができるようになった。

また、三育ライフ千葉事業所においては、10月分の会計業務から、インポートデータ化を行い、会計業務の効率化が進めることができ、会計業務の負担を減らし、経営状況の把握を早く行うことができるようになった。

#### 《5. 考察、まとめ》

社会福祉法人事業を、今後も継続させていくためには、正しい経営判断が必要となってくる。そして、正しい経営判断をおこなうためには、正しい会計情報を、早く提供していくことが求められる。

今回の会計業務の効率化に向けて、会計ソフトの機能を十分に使うことができ、会計業務の効率化を図ることができた。今後も継続して効率化に向けて取り組んでいきたいと考える。

#### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

#### 《7. 参考文献》

株式会社 CIJ ホームページ

#### 《8. 提案と発信》

今後は、更に会計業務の効率化を進めるために、一部、直接入力を行っている小口現金や貸付金・借入金の仕訳を、インポートデータ化を進めていきたい。

そして、将来的には会計原簿のペーパーレス化を検討していきたい。現在は担当行政により許可はされていない現状であるが、紙ベースでの伝票・証書類の電子保存化に向けて取り組みを重ねていきたい。